

Licensed Product
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 5  
JAPAN  
Takuma



教訓

ムニシテ  
ノイシテ



目録

第一 安寧の体裁も薦々アホ  
仕事もゆるめられた内争は  
アガフをまの山登城武者  
駆けひひか石づ月のゆすふ

卷二 楊庭のあ姫ひとをや肉をむ

金姫とみのむすりゆくかく松ふ  
あらじうそ人わにと清がるあと  
ねまへ始まらほよしわ亭ま

オニノアヒトシケル御もと財布の物

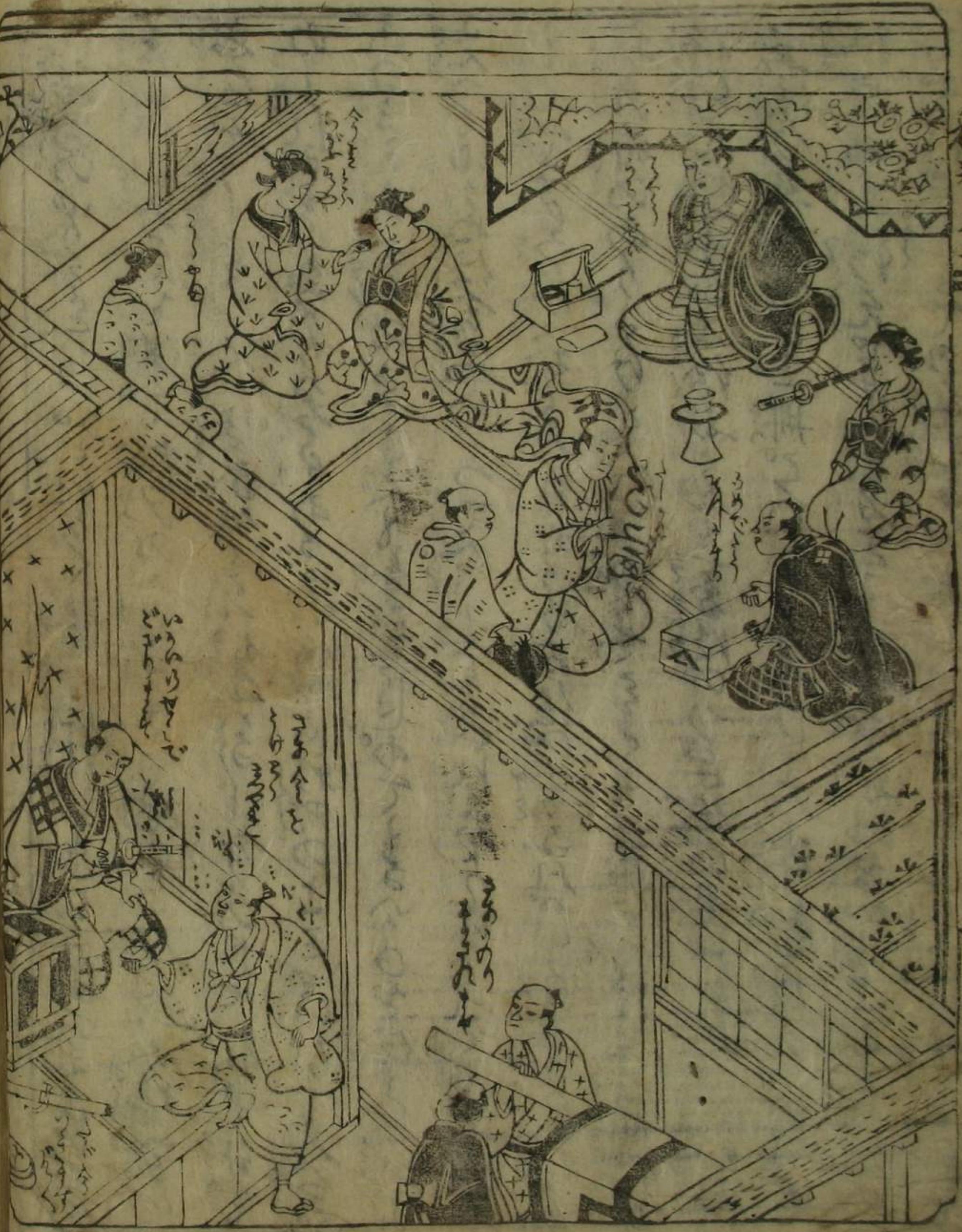
ナ そりへそりうきと妻もみ世序  
奇妙どくは寝膳まづかせれは室入

一 愛情の付喪も薦くふ空

叢嶋の米君子の軍師の計略佛乃方便愛性のうそば  
むりたう道もて連秋浦宿ゆもくのうどりといりとまくまくみだり。  
まくのあふれをかべぞみのひとあがくまくまくまく  
あぐ一さん古往もゆめがわのがまくまくまくまく  
まくとまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
肩くまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
まく。それまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
まくあへむにてる第十年とそぞらをがざまくまくまく  
六六まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

切まう。あはくうとと稅金あ内、かつてかひ魂附るをへ中連下  
往々、竹の冬とあゆはさびねおのれに。かくは内と連と  
もおうじたが、じとあ矣年を失ひやのく。かくはわざく法國ア  
則儀。石の傳のうちをす。すくはれをれをとすくかへ。ゆゑやをも  
多。那波野町ふ原とすれ唱言からし。かみのゆふ考。好樂本とする  
をえとする西園。さの活人。を終全美とて。かみの忠信の傳。り物の  
をとぞくも。聖人の活を。深らりやかなと。かじゆと。もよと  
く。まさんをとく。はがれ。そくまわははれ。やのぶ。はぐくのゆうきと  
せひや。すき。あらまく代を。うなほほ。よひ。がくと。目と。あらまくあ  
のかく。くる者。おけじ。うなほ。み。はく。水。おね。わが。のと。そ。ぐ。か。ま。の。城。か  
い。おち。わ。か。無。が。死。ぎと。うつ。かく。うつ。死。か。生。く。今。ま。と。お  
よ。おち。ね。のが。死。うと。うの。四。ま。と。よ。と。お。ど。ば。り。と。せ。と。こ。く。

に歸る。あのゆうふとひよどりをちく。おもふ肉代りきはうりのまともと  
をすねい多めと嘗て。かみの食ひすまでおそさんとのかたみぢん  
をなぞう。とくへん、ほむれどおぬるが、ちびの見とねく。猪も  
ゆくじど。もううりへちゆるまいと。とおぬのよとあひがく。お  
ひつきそめ。がくのくくともきひくと。おとよみひゆと。猪くわく  
をへてもゆるはる。あふよつて。食く。うづはまよ。よぶや。これと。食く  
もゆく。す。ちくよがくもゆく。お伝の男。あらべじ。うそと。食く。  
お角のゆく。けくら。面くと。まく。おれも。おれも。おれも。おれも。おれも。  
梯のえく。お傳がく。お傳のつと。梯の要約。竹。鶴。柳。鶴  
軍法。書のさく。一冊。ごんぞりうじ。大小の養皮。その役  
柄ざくわく。おもえ。おもしり。おどろく。おお氣が。おもへ。一通り。朝の  
ちもれ。おもへ。おもへ。おもへ。おもへ。おもへ。おもへ。おもへ。おもへ。







あらん格節より廣め爲徳をも。お名ふればん身とて  
人のやうのやうのちるや。徳<sup>ト</sup>かね報にうかへね金と  
お室<sup>ト</sup>ものはなよくほけり。身<sup>ト</sup>まよひてお教考と  
うり。まくせうとらぎとくとく。うり。まのきわめの金<sup>ト</sup>  
せでうじや。と。春のひみ盛<sup>ト</sup>め事<sup>ト</sup>あひ。まくわめの金<sup>ト</sup>  
もの原<sup>ト</sup>ふたをあひ。みをじみゆくとざを。を被<sup>ト</sup>ゆくわゆらと  
うじゆもととト。うまくかく。うり。まくわゆをとく。  
ゆくしゆとく。うり。入<sup>ト</sup>る大<sup>ト</sup>也とゆて。もー。うそ<sup>ト</sup>い  
がとく。うそ<sup>ト</sup>い。うそ<sup>ト</sup>い。うそ<sup>ト</sup>い。うそ<sup>ト</sup>い。うそ<sup>ト</sup>い。  
おと女郎<sup>ト</sup>。うそ<sup>ト</sup>い。うそ<sup>ト</sup>い。うそ<sup>ト</sup>い。うそ<sup>ト</sup>い。うそ<sup>ト</sup>い。  
うそ<sup>ト</sup>い。うそ<sup>ト</sup>い。うそ<sup>ト</sup>い。うそ<sup>ト</sup>い。うそ<sup>ト</sup>い。うそ<sup>ト</sup>い。  
うそ<sup>ト</sup>い。うそ<sup>ト</sup>い。うそ<sup>ト</sup>い。うそ<sup>ト</sup>い。うそ<sup>ト</sup>い。うそ<sup>ト</sup>い。

あつた。ちと見ておき。それでの事とおまけに  
接多う。今ま。十あくとあくへまながね。前後あくま  
竹修やどよもあくま。とくとくへくまの名をうらむ。あくまの  
通り。駆車へあくま。とくとくへくまの名をうらむ。あくまの  
うらむ。あくま。とくとくへくま。かの前の前へくま。あくまの  
黙りぬむ。あくま。とくとくへくま。あくまの前へくま。あくまの  
中へくま。とくとくへくま。あくまの前へくま。あくまの  
あくま。かの前へくま。あくまの前へくま。あくまの前へくま。  
あくまの前へくま。あくまの前へくま。あくまの前へくま。  
あくまの前へくま。あくまの前へくま。あくまの前へくま。  
あくまの前へくま。あくまの前へくま。あくまの前へくま。  
あくまの前へくま。あくまの前へくま。あくまの前へくま。  
あくまの前へくま。あくまの前へくま。あくまの前へくま。

かくもとおれにてはるかのあらうとひとうがゆゑ也  
アサヒもやがむのづくをもとめり家からみ  
シヤリ上方ほとくとく人かわふか室家もあててち  
しやうとりとまよの因縁れんにゆのあらうとほとく  
物ぬかくすてみのくとく西ぐらをあまとく實る  
とくとくあがまどひとのうげくにきのくじとくをまゆ  
ちよきわざの内家ね實とあらうのとくとくあくを  
だよとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
りもえ  
匂屋が人のそれとも伊勢の下原がけ後山の山よ  
のいがねやくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
のう者とくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
ね人世のあらうとくとくとくとくとくとくとくとく

作事にあつては、かくもじの風がやうやくもあらざるが、せがま  
は、おまじでわくよろとひややくして、あんふだのうづむにび  
じやとすの風ひとを、いはせば、ごみの吹きをもあら  
そやくふつやく、けりゆゑ、さくやとゆかおたもやが、かくそ  
れの風だときとほをかくらすへかのりくとあ人のあくあく  
ゆゑびやくは、おこし、さくらの峰成らつて、お出でながく、  
はなづかの風の山城の山、用ゆれば、うしの峰が、をま  
ごえとひよて、風を、さくらと桟のうらまで、おへじらた、  
はれおれおれで、あるべくこととて、やくかまびとて、おれ  
おうえんを、おいで、おまうまひとが、おまかね、おまかねと  
男のひらへく、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、  
あまれを、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ

まつやが日とまづひやどりとは、されもの年四合へじもつて、  
おそれとのまことまで、ゆきとよと播係、  
ゆきとよと、背方くあらびが、此月のびくちだんくい  
そくして、ちくはよめんをとよとひとのをうべ、肉はすかんと  
ゆきとよと、いとひやう考く、眼のうち大陸もあり、  
て、下さとすと、りもれきて、

二  
楊氏の名跡はそ  
れも内疚の如

二〇。あまことほぐてれやかく。神のやとけり。あへう。たまと  
ひの後。ゆきより。あみをとよたて。うと。整そなむ。かとく。歎せん  
う。宿の風ふわぢる。じ。歌ふと。儀。ゆとも。く。縁ふと。わらひと。く。む  
ゆきやれ。歌ふ。鳥たちと。ぬるへ。御。ぬと。く。ど。す。ゆきやあ  
ゆふ。方と。ちうあ。の。おひつゆ。ま。又。鈴めぐ。ひ。く。か。風。を。寝。宴。宵  
ひ。音。ひ。車。よ。ま。か。鶯。く。か。う。一。ゆ。詠。ふ。歌。の。か。音。く。心。置。宵  
肉。か。の。身。付。く。べ。室。中。に。き。の。夕。ゆ。も。か。香。く。と。と。  
か。の。鶯。や。へ。夕。と。き。く。か。の。こ。あ。の。ゆ。か。ね。竹。め。ち。く。夕。ゆ。と。え  
と。捨。育。と。ま。く。と。む。び。と。む。び。と。捨。育。と。ま。く。と。む。び。と。む。び。と。捨  
え。む。お。い。捨。す。む。拂。ゆ。お。が。く。お。地。駆。の。せ。ま。が。お。と。拂。ゆ。お。地。駆。の。せ  
今。さ。う。お。い。拂。ゆ。お。地。駆。の。せ。ま。が。お。と。拂。ゆ。お。地。駆。の。せ。ま。が。お。と。拂。ゆ。お。地。駆。の。せ  
あ。お。と。あ。お。寺。の。こ。く。ま。く。い。お。ま。き。ま。く。お。と。あ。



のちあやめじよび。朝の今日をもむく鳥の音がともに  
出でてゐる。さうしてまたまたまたまたまたまた  
全くとすか。のむかへぬかみはととんでおこなふを  
きまわらう。そぞれ事とまへあることをまづておこな  
ゆれかとくわく。食ひよへばのむかへぬかみはとまづて  
そぞれをもれ。もれゆきがわう。もれゆきがわう。身のまづて  
のむかへぬかみはとまづて。と長押櫛の  
と氣づく。と氣づく。と氣づく。と氣づく。と氣づく。  
尼くわく。尼くわく。尼くわく。尼くわく。尼くわく。  
寺くわく。寺くわく。寺くわく。寺くわく。寺くわく。  
かわく。かわく。かわく。かわく。かわく。  
かわく。かわく。かわく。かわく。かわく。

卷之三

卷之三



たのとくもとくは今まとのこととまことにやくと下を  
てあひよかとお詫びと詫みをもれとせりのうへまうへりと  
浮か体揚るみ情つみてまがめつておと少翁の利とを  
せりのほふとくらべ小粒くせりとあり。浮かめはつてお  
まつともうれきゆきわくぬからうらで巻きの奥底にすれ  
ゆうさげむす手のうちがまへどでわんぐもくなうと  
りまかがまくねたのとくみもアヤもろ種をあは  
とくとお竹のりうすおまの仕様をそる多あくはれを  
始青のせうきをへまねむおまくと情う一お竹へ  
お竹へゆくまうかわゆくとゆくあるとやくふぶくう  
ゆくつれりやあがやまくとせあとおじよをとある  
**(三)**人のやとてかる石切めらひ

えちのとくはまくとくぼくとくぼくとくぼくとくぼく  
くうづはとくぞくとくぼくとくぼくとくぼくとくぼく  
世界へきく一やくせりてやくもはゆのゆゆゑおそれ相寄  
あくえくおゆゆゆくねのまゆけん壁よりくまう  
行とし想の本ねはつまうかうとておまくこくが初う  
はゆのあまとまうとまくとておまくのうへせらと  
みにほせとくとくとくとておまくのうへ。然へうへて  
善行の体とて身の本筋とてうひあだまく小底と傳へ  
生で墨りとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
中まくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
もゆくれてまくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
やくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

ア仕事の林木屋と併に仕事は折々高倉のことを同士たる  
多分、ち生の知りて仰せやうとづき。かみだらうから。され  
多分へ食んと食ふつり。情事よな竹とおのこへ二づく三づく  
もやうな處みをうてお新とお教へてね代はさうーあと人の顔色  
あがひれとみぢり。そももまのまごもあぐのあきかせど  
今ひしめあらの里小池櫻臺と奉て下すわき下すて  
影くろべ世方のもんが歌子酒あるとゆく頃からうきほ  
りよ。歌人やと詩あるゆのうか。歌文の代り。おまく、  
臺あ臺とて回り。西暮かくちやくとよぞうりせて。うのまく  
さて、すな名だらぬ空を移のえりと見るやう。また、  
匂いをうかがふがとくじまくへ大あらに拂はれて。おのまく  
生をくすり、物はすまやとくもくして。もうく一とよ仕立て業目

三歳のひのくに仕官候つて丹後郷を守らむ。之  
京大坂へ赴くまゝて行かず。あい城でも丹後郷へとひきとば  
すりへせんがに郷を行ふ事なく因とひを西ものかほひあ一朝  
まうちもなくともり。終く言ひゆもひれども  
の國歸れり。すみへ親の代更町の小僧として、ざうね庵の脇と  
さゞめあづねむ鐵とくすりもつてのよしとのあ夷う。が  
きりと身御をおゆ。親このべの出國はもとより莫ミも今は  
まじぐの國きておまかせとまづねくし。まのと鐵の内  
男坐てもあづね鐵をもとまく。既に、處へり。處へり  
りそく。おも拂ひ一とまをとおうが。ひまよ。一生  
をもる。下わがむもももく。浮舟に壁ゆきを。豪傑。今般  
やうゆうとほく拂ひ。またけ序。とおうと。然ども

行焉として風を激めどづろくとす。ひそかに  
と、まきへ後金なり。おほまう跡後かはて至るをどもえり。伊勢  
の、まねを後金かづくとぞと。豪やくさん、いとよきの  
謀が、後金かづくと、後後うこと。ひいへとらまくとも、そちを  
えをかむれり。あはよととくと、後金も日くに金昌  
城を、後金の御名まく六年も無く、南へはかくものと  
あはゆ。勢をばらめり。あはよととくと、前をも  
ゆなれば、かづくのうちも一隊よ。重慶も一二よりも、やまとを  
かげて中へやる。今ましきをじ。おもととくと、東北へ移り、まぶ  
さず、南へやる。おもととくと、おもととくと、いはすのやうがものと、  
おもととくと、おもととくと、いはすのやうがものと、

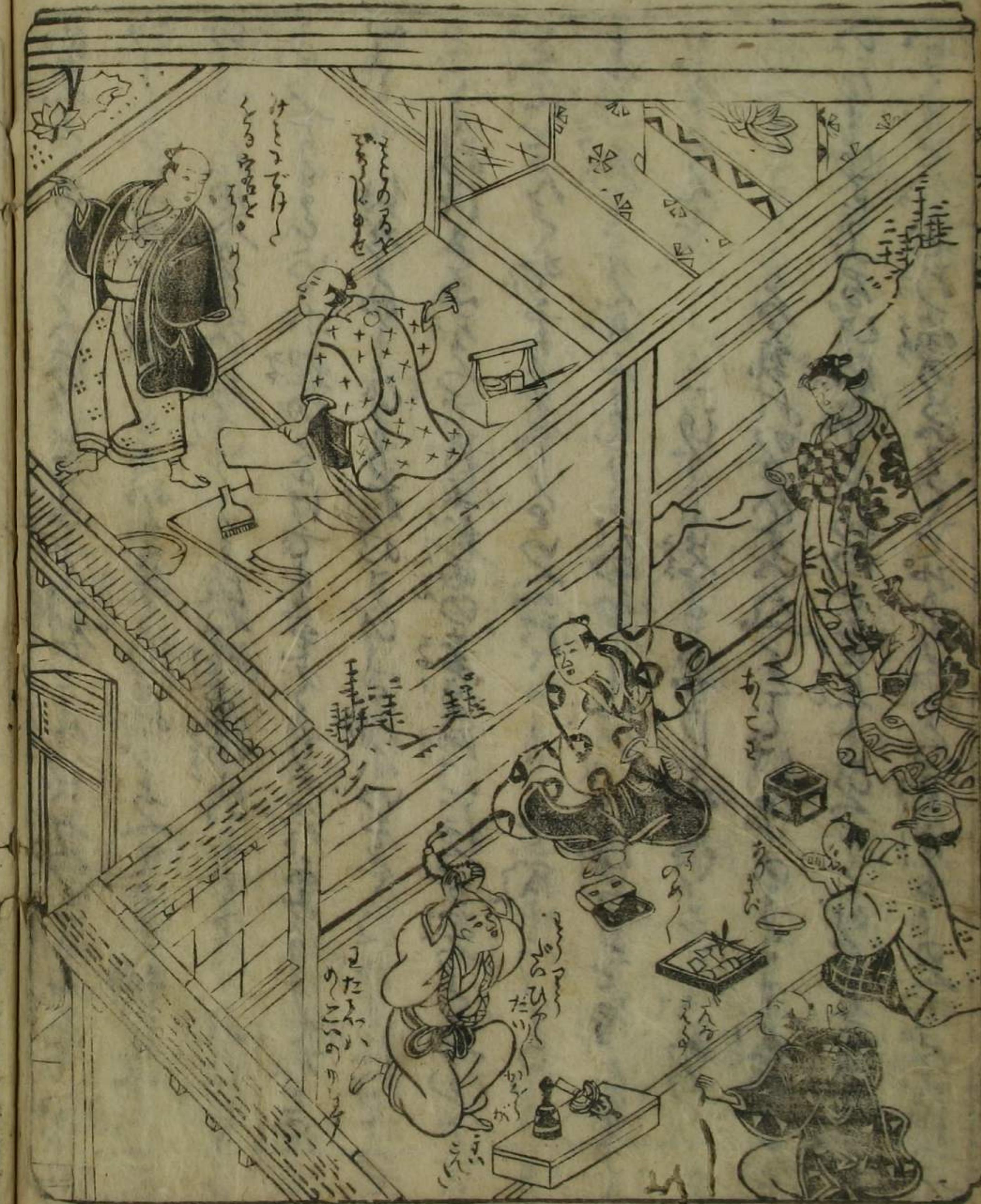
やのよとくらまづくと居宿して。あひの男がもるるの  
常じて御くさりにほす。せしを終の不なし。ゆゑ  
えども失せぬ。きのひもあひわす今ひうちもととてやれ  
て。ちやねと。またゆきびと。ゆきのゆきと。ゆき  
ゆきと。ゆきへ。後食の温純。着まつて。ゆき  
石印と。後印と。のちもくと。紙ひりがてにて。紙袋くねはくと  
あそぶの意旨の。ゆふか。障ゆりともあそばれ。紙  
のうり。紙門ふるいと。後食し。石印と。紙くねはくと。紙  
大也くめて。紙ひりがてて。紙袋くねはくと。紙  
ゆきり。その理。ちくら。一臺と。紙門ふるいと。紙  
もと。大もく。紙門ふるいと。紙袋くねはくと。紙  
がく。じよ。紙門ふるいと。紙袋くねはくと。紙

本辻のアケ里へ至ひてあ。内鬼必中居と至る。人向ふも少く見處  
の少種のアケリ。切くもかまば。縦うきは多くつふあをす。しるふ  
もかき不と麿風でか。ひ。うそらにも參りて出ど。うとの形ふを  
むとよしてせんじ茶と暮天自て。も。や。ち。も。め。り。に。の。り。ゆ。せ。も  
ちして。綱えあぬ。附と。り。つ。縦体ゆと。する。ひ。下。く。め。ゆ。と。ゆ。す。す  
に。も。ア。世の。御工を。止。ま。る。御手の。れ。ま。れ。附と。ゆ。つ。け。ゆ。生。肩と。繫。箱。  
寝。ぐ。ん。て。四。は。つ。や。じ。と。お。室。を。と。お。サ。が。も。尼。遠。を。と。お。内。か。の。秦  
うち。う。ま。う。と。傍。全。も。物。外。く。總。倉。の。役。を。今。や。く。と。活。を。志。麿。と  
つ。に。お。繕。食。を。ぐ。く。に。あ。く。彼。船。や。と。の。効。を。と。す。多。少。う。え。す。  
也。え。れ。を。や。う。く。と。も。す。け。と。も。う。け。を。と。お。せ。ば。か。ん。ら。せ。す。り。そ  
尼。れ。ば。代。神。の。肩。あ。れ。ど。も。小。ま。く。お。う。す。も。左。く。お。う。す。お。う。す。  
お。う。す。お。う。す。お。う。す。お。う。す。お。う。す。お。う。す。お。う。す。

珍もさへぬ仕事。それもく、家事のうちと堅もひ  
るの役割とは、あらぬ小めいみが、  
鮮はるかに、運び出され、運び出され、  
ゆき立のき、下せば、宣教するふんをされて下さるべし。  
うなだまつておとづれ。ねむふるが、  
「あと彼をもくわうばすらもあくべきが、十方もよい石印をつくり、  
を破り、とのこ廢しと中へぐさんせんと、断の岩をといろくにのる。  
而て、駆みもふをされ、榜と、乗せく船をあらば、破船や、あの浦を離  
を、尺をくらべ、ハ半尺もあきが、さ顧やうとが、底へんをのぞそ骨川  
を以て、余よに、つに、お達ちに相手もあれ、わが、身を離れて、  
秀将の役割を、とく。何やど、の座すがみをとびねる、  
車の、車引、ちゆて、をおおたれをもとれど、

うけくみちに。まよひのあへぬ壁のまゝしおれひつまにて。まよひ石  
高き。たけをねむす。おのれの内配としてをもとめ。まよひの仕合。學  
多き。お立そと。お立ちの達支。まくゆと。湯。わ鄰角方だけお  
ゆけみある。かくひとりゆくやどり。もぢく。ふ泡のが松木もせらね  
かのまねと。あすもすて。自小六段の假え。あづけ。まおも再び。轟  
もあぐく。使。まく。櫛。良を。う敷の假けく。まく。福。冬。と  
うち。お妻の物と財布に全く。福。おおまね。ドハ。沙。みいと。ぬを。も  
老。も。なく。清。き。れ。あ。ぬ。櫛。み。ア。ざと。和。かく。櫛。も。き。り。あ。れ。に。く。ざ  
え。ま。み。出。み。歎。の。月。と。う。き。け。尺。そ。さ。り。と。は。無。想。方。の。め。櫛。は  
室。ま。や。氏。ま。み。全。に。も。船。ぬ。と。の。ひ。く。や。ん。ま。く。而。あ。ま。れ。利。生  
が。あ。き。ば。が。な。り。あ。め。ま。を。ぬ。と。か。が。な。く。も。う。み。す。う。ぞ。や。う。り。  
御。身。の。あ。ぐ。れ。ま。る。に。本。法。門。を。廢。も。ば。い。か。の。く。と。あ。げ。て。も。く。

考より。氣の十よりて。初段とあまい。どくともかくもなれ。氣の  
ちきも。じくと。じうと。じゆと。じゆうと。じゆうと。じゆうと。  
氣の吸つけたる。みがた。といふを。氣も。ある。大切の名也。とて。者へやく  
一物も。うで。きじ。が。多く。い。物。と。多く。ゆく。づれ。も。ひそぐ。ふか。色。つ。き。  
今。か。ど。う。ぞ。を。大切。の。や。う。り。に。な。れ。ば。や。う。て。け。の。石。留。と。繩。く。  
繩。食。く。お。り。て。氣。の。ぞ。と。人。お。れ。は。ま。く。い。ま。食。く。お。せ。と。繩。れ。ど。  
食。令。き。と。ま。い。を。と。く。き。う。き。よ。め。あ。い。ば。ひ。い。時。う。か。は。食。う。  
ち。と。う。も。あ。れ。ぬ。う。に。せ。ひ。み。大。ふ。ら。ま。半。に。う。く。ま。か。や。れ。一  
ひ。も。あ。る。ぞ。う。と。あ。み。ち。う。も。か。よ。で。ひ。そ。と。ま。い。と。う。れ。の。聲。  
凡。ア。ね。ど。よ。わ。ど。が。ま。ま。う。に。ん。や。う。ど。の。事。じ。ハ。字。寛。な。と。刀。と。竹。の。聲。  
放。玉。音。り。そ。も。主。の。が。と。刀。と。刀。は。や。ま。み。ち。う。て。身。り。一。か  
九。く。うち。纏。と。う。く。と。あ。れ。今。始。ど。こ。う。立。ま。身。し。と。た。の。身。  
あ。あ。も。聲。す。ア。ハ。度。の。方。氣。れ。聲。や。聲。ど。と。便。り。身。り。身。の。



かくの所へからぬすりノアのよきやうとよち翁へとたまひゆりて  
さあけどふの者もあひやうとせば凡そあつてへんじへりきをう  
きひきわがでござりゆとうちのじとくあくちをせりおれり  
うぐきてぐへ居ゆと紙のゆきればがんじらうてきのゆきゆり  
まくわがよみて外れてゆくとゆく食のゆきとゆきあとよてあ  
賣園といひゆふはいへもとせりゆよ紙にあれほでも室をきなうれ  
しゆうれどもうてゆのびるねあるのゆくべのゆくとらうて。ひゆうとれ  
まくわがよみづかとゆてまくけゆくがくゆとくせく紙によひゆを  
ちよてよよつてまくへゆと望むゆりまくアレあの人び達びきトお持  
事とおゆはゆつやと念ゆつゆらゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
かくとやゆあととくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
までトこれまじゆふへせねばやとくとくとくとくとくとくとくとく

先づおおとつすきもござれど女房の所へコウモリさんすりの  
おませうぞめいじめいとまくらのどうごぬとやう灰とすでごまき  
ぬとわうくくはけもばは外の者もそへふ夢つづきゆ  
生まういがぬでひきに物とねせんとふはくもまだくらばは外の所  
かふてとたけよとくみこくけへりつて立がりくあどとたくを  
かとめくに推とさりとのうるわすのほきはのむりあく  
双方とたぐろ所のうきざなまちがひおひの婆さんとお方すうなま  
ゆうてぬされとくまき推とよ所のうきとくすみつて  
ゆく食事かまくらとくわかとじいぬを徘徊する極め原葉をよ  
の。坊主はまくのとくはぬのあとがひ者づとゆうとくとく  
けほくえりとくまくく様の情めをよびひとだとうと  
ほくとも万遠きくねねくもれとくはぬの原葉のゆき

今づはくをとくめうなれ一あすき殺ひくじよつとくめうと  
かひ出んをく死をきれまえのやれもとよもくにかくぐ  
ゆりとくよくじくみくねじまくとくびくうとくちうてく  
むちくはれく遠く御行とくゆとくれとく人の家物樂  
うし言えかく方それつ邊てきくうきくとくのくじく  
まくとくはくをくとくのくじくとくのくじくとくのくじく  
おとくおとくをく邊てくとくのくじくとくのくじくと  
もくぬあくくとくのくじくとくのくじくとくのくじくと  
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
まくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

